

静岡県東伊豆町

体験内容（受入レポートから）

観光イベント従事
観光関係者ボランティア会議出席
農業体験（トマト・ワサビの収穫）
漁協イベント補助
着地型観光商品体験

報告者

市町村　　：遠藤　尚男（企画調整課）
体験調査員：椎名　愛理（東京女子大学）
　　　　　　田中　靖子（慶応義塾大学）

地域づくりインターン事業 in 東伊豆町 2009.8.6 ~ 8.19

静岡県 東伊豆町 企画調整課 遠藤尚男



椎名愛理

東京女子大学 文理学部 3年

田中靖子

慶応義塾大学 総合政策学部 3年

地域の概要

東伊豆町は静岡県の伊豆半島東海岸の中央に位置し、天城の山なみを背に伊豆大島を始めとした伊豆七島を望み、豊かな自然に恵まれた人口約 14,500 人のまちです。

総面積 77.83k m²、林野率約 75%、平均気温約 17℃、地形は主として丘陵をなし、海に面していくつかの平地が点在しています。また、海岸沿いの 6 つの温泉郷（大川温泉・北川温泉・熱川温泉・片瀬温泉・白田温泉・稲取温泉）を縫うように鉄道と国道が通っています。

第 3 次産業の就業者割合は約 78%、ニューサマーオレンジなどの柑橘類や、カーネーションなどの花卉類を中心とした農業と、キンメダイや天草を特産とした漁業をベースに、美しい自然環境と豊富な温泉、海の幸、山の幸に恵まれた観光産業が主幹産業となり、年間 100 万人を超える方が宿泊しています。

受け入れ目的

東伊豆町では「みんなが安心して暮らせる町、笑顔があふれる町」をキャッチフレーズに、様々な政策を実施しています。今回の事業ではインターンの 2 人が実際に地域に滞在して、若者の視点から東伊豆町を客観的に見つめることで、気づいたことや感じたことを意見や提案として受け止め、今後のまちづくりに役立てていきたいと考えています。また、昨年このプログラムに参加した OG 2 名も 3 日間合流し、地域住民との交流を深めました。

受け入れ内容

体験内容：観光イベント、農業体験、漁業体験、地域行事など

宿泊形態：ホームステイ、公共宿泊施設

スケジュール

月日（曜日）	内 容
8月6日（木）	東伊豆町到着 プログラムスタート 片瀬温泉 炎艶美
8月7日（金）	雛のつるし飾り制作体験 稲取温泉ちびっこフェスタ
8月8日（土）	稲取漁協 磯の体験学習 天草干し場見学
8月9日（日）	休 日
8月10日（月）	農協 トマト収穫体験 インターンOG中武・庄司合流 徳造丸「ところてんづくり」体験 東海ホテル「湯苑」日帰り温泉体験
8月11日（火）	ガラスアート体験 稲取温泉 ボランティア会議傍聴
8月12日（水）	築城石（壘石）見学 旧稲取灯台見学 中武・庄司離町
8月13日（木）	片瀬 盆踊り大会
8月14日（金）	熱川バナナワニ園見学
8月15日（土）	夏休み風車見学会 クロスカントリーコース
8月16日（日）	かにのひっこくり体験 シラヌタ大杉ハイキング 農協 わさび収穫体験 稲取温泉 星空観察会
8月17日（月）	熱川幼稚園 保育実習 熱川 クリアキャンドル制作体験 細野高原マウンテンバイク 農協青年部と交流会
8月18日（火）	報告会準備
8月19日（水）	体験報告会



活動紹介

観光イベント従事

地元の観光協会主催の花火大会にスタッフとして参加しました。子ども会の役員さん達と一緒に、暑い中、熱い鉄板で焼きそばづくりに挑戦するなど、ハードな体験を。その後はカキ氷を作ったり、打ち上げ花火を鑑賞したり、観光客や地域住民と交流する良い機会になりました。



観光関係者ボランティア会議出席

稲取温泉では、全国公募により就任した観光協会の渡辺事務局長が中心となり、観光地の再生に向けて様々な事業を繰り広げています。今回はボランティアメンバーによる全体会議を傍聴させていただきました。地域を担うメンバーの熱意に触れ、感じることも多かったのではないのでしょうか？

農業体験（トマト・ワサビの収穫）

農家のご協力により、トマトの収穫をさせていただくことに。比較的涼しい陽気でしたが、約4時間、収穫し、磨きながら選別、さらに草むしりと、農業の厳しい仕事を体験。さら減多にできないワサビの収穫も体験しました。このほかにも農協青年部との交流会なども行いました。



漁協イベント補助

漁協が主催する「磯の体験学習会」に参加。このイベントは漁師さんたちが子供たちに素潜りを教え、海の楽しさ、厳しさ、美味しさを学んでもらおうと企画されたもの、おかげで2人はサザエのつぼ焼きやキンメダイのみそ汁などを堪能することに。美味しさを学ぶことができました。

着地型観光商品体験

- ・ 雛のつるし飾りの制作体験
- ・ ガラスアート、クリアキャンドル体験
- ・ 細野高原マウンテンバイク
- ・ かにのひっこくり（カニ漁）
- ・ 星空観察会



受け入れで苦勞した点、良かった点

昨年に引き続き 2 年目の事業ということで、担当としても今年は昨年より余裕がありました。

宿泊についても観光地にとって夏場は最も忙しい時期で、その上、お盆も重なり身内が帰省する家庭も多く、昨年はホームステイ先の確保に苦勞しましたが、今年は 5 軒で受け入れていただきました。



また、地域の受け入れについても、前例があるため、「今年も来てくれたの！」などたいへん気持ちよく迎え入れていただきました。特に、昨年のインターン生 2 人（立教大学 4 年：中武彩香さん、城西国際大学 4 年：庄司奈津子さん）も期間中、2 泊 3 日の行程で応援に駆けつけましたが、地域の方から「おかえり」と声をかけられるなど、とても温かく迎えられて 2 人とも大感激。宿泊場所も昨年泊まったホームステイ先に今年もお世話になってしまいました。

最後にインターン事業全般については、今年も町の産業団体連絡会（商工会・観光協会・漁協・農協・町で組織）の全面的な協力を仰ぐことができ、数多くのイベントや行事からのオファーが。結果、またもや盛り沢山の体験内容になりました。

受け入れの成果・評価

今年も地域に溶け込むには地域の輪に加わり、多くの汗をかくことが必要だと考え、あらゆるイベントや行事に参加し、たくさんの人々と触れ合うことを心掛けました。

また、2 年目ということで、事業の認知度も高く、住民の方には、本当に温かく迎えていただきました。インターンの 2 人にとっては慣れない土地での過密スケジュールで、



苦勞したと思いますが、地域住民と一緒に汗をかくことで、多くの人たちの努力が地域を支えていることをより強く感じることはできたのではないのでしょうか。また、都会の若者が地域の活動の中に加わることは非常に少ないため、受け入れをした団体等もいろいろな意味で刺激になりました。

簡単に事業の成果を出すことはできませんが、期間中での意見交換や報告会で発表のあった提言も含めて、今後のまちづくりに役立てることで、その成果に繋げていきたいと思います。

関係者の皆様、田中さん、椎名さん、本当にありがとうございました。

平成 21 年度 国土交通省 若者の地方体験交流支援事業
「地域づくりインターン」報告レポート

派遣地域→静岡県東伊豆町

派遣期間→8月6日～8月19日（計2週間）

体験調査員→椎名 愛理（東京女子大学 文理学部社会学科経済学専攻3年）

派遣地域の概要

東伊豆町は静岡県東部、伊豆半島東海岸中央部に位置し、稲取、白田、片瀬、奈良本、大川、北川の6地区に分かれており、地勢は平地が少なく全般的に丘陵性をなしている点が特徴的である。年平均気温は17℃で、温暖且つ夏冬の気温差が少なく、人々の生活に適しており、また農作物、植物の生育にも適した環境であるといえる。特産物として金目鯛やカーネーション、山葵、ニューサマーオレンジが有名で、特に金目鯛の品質は最高ランクに位置する。また温泉地としても有名な町であり、第三次産業の従事者が人口の7割を超えるという特色を持つ。

参加動機

私は大学で経済学を専攻しており、地域の経済格差や産業の衰退、人口減少といった問題に対し、どのような対策が必要であるのか興味を持っていた。様々な地域において上記したような問題が起こっていることは既に学んでいたが、実際に現地に赴いて現状把握をすることが今後の学びに必要であると考え、今回のインターン事業に参加した。エントリーしている地域の中で、観光業が主な産業であるという特徴をもつ東伊豆町に興味を持ち、派遣地域に志望した。

体験内容

- 地域内イベント運営の補助
- 農作業体験
- 各観光名所の見学 ほか

スケジュール

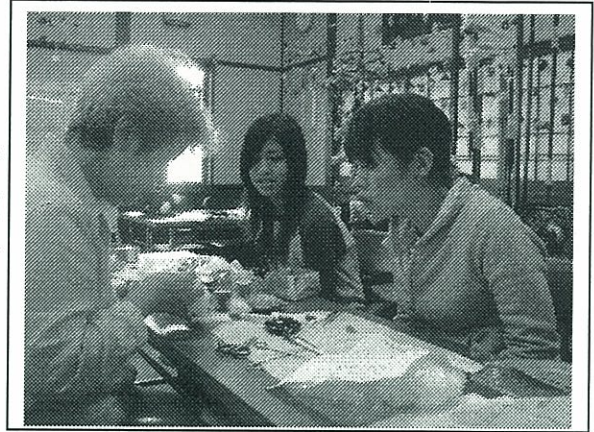
日付	曜日	午前	午後	夜
8月6日	木	町案内	町長表敬訪問 片瀬の花火大会補助	民泊
7日	金	雛のつるし飾り製作体験 みかんワイン工場見学	ちびっこフェスタ補助	民泊
8日	土	磯の体験学習補助	役場職員との懇親会	公共施設 泊
9日	日	休日 白浜海岸の観光	花いっぱい温泉	公共施設 泊
10日	月	トマト農園の補助 温泉体験 ところてん調理体験	役場職員との懇親会	民泊
11日	火	ガラスアート体験	町長と夕食会 地域の元気再生事業中間報告会	民泊
12日	水	稲取灯台の見学・ 石切り場見学		民泊
13日	木	資料整理	盆踊り大会スタッフ	民泊
14日	金	休日	バナナワニ園 資料整理	民泊
15日	土	風車見学	風車見学	民泊
16日	日	蟹のひっこくり体験	わさびの収穫作業 しらぬたの大杉見学 星空見学	民泊
17日	月	クリアキャンドル作成 幼稚園見学	細野高原マウンテンバイク 農協青年部との懇親会	民泊
18日	火	体験報告会の予行練習	資料整理	民泊
19日	水	体験報告会	離町	

体験内容紹介

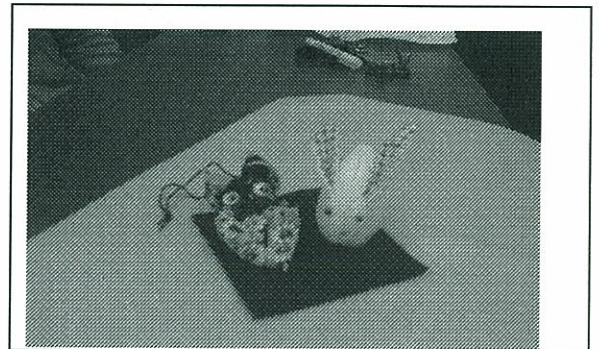
●雛のつるし飾り製作体験

雛のつるし飾りは、東伊豆町伊豆稲取温泉に江戸時代から伝わる風習で、桃の節句に端切れで作ったぬいぐるみを、竹ひごの輪から雛壇の両側につるす飾りである。飾りにはそれぞれ娘の無病息災や良縁を願う意味が込められている。

私は数ある飾りの中から「福ろう、不苦労」の意味をもつフクロウを作った。全てのパーツを一つ一つ手作りするため、細かい作業が多く集中力が必要であった。三時間ほどかけて完成した。作り終えた作品は持ち帰ることができ、体験型観光を楽しみたい観光客にお勧めしたい思い出づくりである。



(天井からぶら下がる飾りは圧巻の美しさ)



(完成したフクロウとうさぎ)

●磯の体験学習

磯の体験学習は、海で貝を取って遊ぶことが少なくなった子供たちに、海に潜って貝を取るという体験を通して海の恵みの大切さや、海の怖さを学んでもらう機会のある場である。当日は小学校高学年と中学生が参加し、皆たくさん貝を取っていた。

海遊びという文化を今の子供たちに伝えていく貴重なイベントであると感じた。参加者を地元の子供たちに限らず、観光で東伊豆を訪れている子供たちも対象にすることで、東伊豆の良さをより実



感じてもらうことができるであろうとも思った。

●ガラスアート体験

ガラスアートを体験した11日は、本来は磯へ出てかのにひっこくりを行う予定だった。しかし早朝の地震の影響で海へ出ることができず、急遽ガラスアートの体験を行うこととなった。

ガラスにガラスを乗せて焼くことで模様を作る体験で、私はストラップ作りに挑戦した。天候に左右される屋外の観光スポットに対し屋内の施設の場合、天候が悪く外へ出られなくなった観光客の集客に向いていることに気がついた。このような施設が駅の近くや旅館の近くにあれば、より使いやすい、楽しみやすい観光スポットになるだろうと感じた。



地域への提言

①「客層に見合ったアピールポイント、施設づくりの重要性」

私は東伊豆に到着し、町を見て回っている中で観光客として訪れている人々の客層から、女性客が集中しやすい観光地であると感じた。女性客が多いと仮定するならば、女性が求めるサービスや商品を集散的に開発、販売していくことが東伊豆町の経済の活性化につながるのであるが、そこにもう少し詳細な計画をもちこむことが重要であると思う。それは例えば町の名産を利用した商品を開発する際のターゲティングで、「女性客」という大まかな括りではなく、何歳代の女性をターゲットとするのか明確に定める、年齢を定めたいえで年齢に合わせた商品の価格を設定していくといった細かいマーケティングの必要性である。また、女性客だけでなく団塊世代の観光客を集客する場合には、お年寄りが利用しやすい施設づくりが必要になる。駅の階段をスロープにすることでお年寄りも旅行の荷物を引いて移動しやすくするなどの配慮が必要になる。

②「急な予定の変更に柔軟に対応できるまちづくり」

今回のインターンは、地震の影響で急に予定を変更せざるを得なくなったが、観光客が天候の影響で予定を変更する必要がある場合、宿泊先である旅館やホテルの近くに屋内施設を設けることで、移動の手段も問題なく、滞在期間を充分満足してもらうことができる。その際の施設で雛のつるし飾りの製作体験や、ところてん作りの体験を行えると、町のアピールにもなって良いと思う。

地域づくりインターン事業 体験調査レポート

インターン概要

派遣地域 : 静岡県東伊豆町

派遣期間 : 8月6日～19日(14日間)

体験調査員 : 慶應義塾大学 総合政策学部 3年 田中靖子

東京女子大学 文理学部社会学科 3年 椎名愛理

(計2名)

体験内容 : 着地型観光の体験、農業体験、漁業体験など

(東伊豆町役場 HP より引用)



受入目的 : 東伊豆町では様々な着地型観光に取り組んでいるにも関わらず、年々観光客が減少している。そこで、インターンの2人に東伊豆に滞在して様々な体験を経験してもらうことによって、若者の視点から東伊豆町や東伊豆町の観光を客観的に見てもらい、気づいたことや感じたことを今後のまちづくりに役立てていきたい。

派遣地域の概要



東伊豆町は静岡県の伊豆半島東海岸の中央に位置し、天城の山並みを背に伊豆大を始めた伊豆七島を望み、豊かな自然に恵まれた人口約14,300人の町です。東伊豆町は大川・北川・熱川・片瀬・白田・稲取の6つの地域によって構成されており、各地区にはそれぞれ豊かな温泉が湧出している。

総面積約78km²、林野率約75%、平均気温16℃、地形は主として丘陵をなし海に面していくつかの平地が点在している。

第3次産業の就業者割合が70%を超えており、ニューサマーオレンジなどの柑橘類や、カーネーションなどの花卉類を中心とした農業と、金目鯛や天草で知られる漁業をベースにして美しい自然環境と豊富な温泉・海の幸・山の幸に恵まれた観光産業が主幹産業となっている。

また、「かにのひっこくり」や「雛のつるし飾り」などの東伊豆町の独自性を活かした着地型観光にも力を入れている。

(写真: 雛のつるし飾り)



体験スケジュール・内容

体験日	体 験 内 容	
	午前	午後
8/6	伊豆大川駅に到着 インターン打ち合わせ	町内案内 町長・副町長訪問 片瀬夏祭り「炎艶美」補助
8/7	雛のつるし飾り制作体験	ちびっこフェスタ補助
8/8	磯の体験学習	役場の方々と交流
8/9	休 日	
8/10	トマト収穫体験 去年のインターン生と合流	心太作り体験 担当課の方々と懇親会
8/11	地震発生 ガラスアート制作体験	町長と会食 旅館組合会議に参加
8/12	旧稲取灯台見学 畳石見学	名物の肉チャーハンを食べ 町長面談
8/13	資料整理	盆踊り大会補助
8/14	資料整理	熱川バナナワニ園見学
8/15	風車見学会補助	風車見学会補助 ←
8/16	かのにのひっこくり体験	わさび収穫体験 星空見学会
8/17	幼稚園見学 クリアキャンドル制作体験	細野高原マウンテンバイク 観光協会会長を訪問 農協青年部と交流
8/18	報告会準備	報告会準備 送別会
8/19	報告会 東伊豆町離島	



活動内容の紹介

インターン期間中の様々な体験の中で、着地型観光体験や東伊豆の独自性が活かされていた体験プログラムを5つ取り上げて紹介する。(日付順)

日付	活動内容
8/7	 <p>< 雛のつるし飾り制作体験 > 雛のつるし飾りとは、稲取温泉で江戸時代から伝わる雛壇の横につるしを飾るという風習であり、つるし飾りの制作を実際に体験してもらう着地型観光体験の一つである。これは女性に限らず、男性にも人気がある。指導員の方が丁寧に指導してくれたため楽しみながら作ることができた。また年1回、雛のつるし飾りまつりも開催されている。</p>
8/10	<p>< ところてん作り体験 > ところてんは東伊豆町の特産物の一つである。それは東伊豆町ではところてんの原料になる天草が多く獲れるためである。この体験は天草からところてんを実際に自分で作ってみようというものであり、完成までに30分程要したが、思っていた以上に大変な作業であった。また完成品は一つ一つ味が異なるため、非常に体験しがいがあった。</p> 
8/16	 <p>< かにのひっこり体験 > この体験はかにを東伊豆の海で獲るものであり、私が最も印象に残っている着地型観光体験である。その理由は、かにが獲れた時、言葉では言い表せない喜びや感動を味わうことができたからである。その一方で、獲れなかった場合でも悔しさから再度リベンジしようとする気持ちになり、再び観光客が訪れるきっかけになるのである。また、最後にかにのお味噌汁を味わうことができたのも大満足であった。</p> <p>< わさびの収穫体験 > わさびは東伊豆および伊豆半島の特産品の一つである。わさびは水のきれいな所でしか育たないため、わさびの収穫風景を都会では目にすることはできない。この体験を通して、わさびが市場に並ぶまでにどのような過程を経ているかを学ぶことができた。また、生わさびの味覚にも触れることができた。</p> 
8/17	 <p>< 細野高原マウンテンバイク体験 > これも東伊豆の着地型観光体験の一つである。自転車に乗るのが久しぶりであったため若干の不安もあったが、体験には指導員が付き添ったため安全であった。主に下り坂を走るのので、力もそこまでは必要なく気軽に走行中の景色や心地よい風を楽しみながら走ることができた。さらに、途中におやつ休憩があり、それも楽しみの一つであった。</p>

参加に至るまでの経緯

< 体験事業の参加動機 >

私は、途上国の経済状況の改善を考える開発経済学と、地域の経済を考える地域経済学を学んでいる。2つの学問には「その地域の独自性を活かす」という共通の視点がある。しかし、それを大学の講義だけで理解するには限界があるため、実際にある地域に訪れ、地域の独自性を活かすことがどういうことなのかを見てみたいと考え参加した。

< 地域選択の理由 >

地域を選択する際の大きな要因になったのは、「東伊豆町のおもてなしの心」である。いくつかの地域に問い合わせをしたところ、東伊豆町の対応が一番丁寧かつ親切だった。それは東伊豆町全体におもてなしの心が浸透しており、その心が対応にも表れていたのだろう。

地域への2つの提案

	1) 観光客の現状把握の強化	2) 観光のターゲットや目標の明確化・共有
現状	観光客数を把握するために、入湯客数を利用している。しかし、観光客の性別や世代に関するデータはない	団体や人によって若干の差異が見られる =きちんと共有できていない状態である
提言内容	観光客を性別や世代の観点からだけでなくより詳細に把握する	観光のターゲットや目標を明確にし、それを町全体で共有する機会を設ける
提言理由	観光客の性別や世代などが分かれば、観光客減少のためにピンポイントな対策が可能である	町でターゲットや目標がバラバラであれば、一丸となって協力してまちづくりを行うことはできない
具体的方法	・既存のQRコードのアンケートを利用 アンケートの項目に性別や世代に関するものを追加する ・ホテルや旅館との協力 実現にはハードルが非常に高いが、把握にはそれらの協力が必須である	・町の会報に掲載 町全体に配る冊子にそれらを掲載することで、観光に携わる人だけでなく町民全員が知ることができる ・話し合いの場の機会を設ける 観光に携わる人々が参加できる話し合いの場を月に1度は設けることが必要であろう

体験に参加した感想・評価

本当に貴重で良い経験をさせて頂きました。書籍を通して何かを学ぶことも大切ですが、それ以上に直接自分の肌で学ぶことの必要性や大切さをしみじみと感じました。それと同時に、人とのコミュニケーションの重要性にも改めて気づくことができました。そして、何よりも家族のように迎え入れてくれた東伊豆町の方々に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



